
野垂れ死に、ゴミ箱の蓋

忌増小唄

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

野垂れ死に、『ミニ箱の蓋

【NZコード】

N7876V

【作者名】

忌増小唄

【あらすじ】

ロツクンロールが大好きな容器のキヤップを作る男と、高校以来の豆腐工場の男久々の再開。さえ人生から抜け出す起死回生物語。

とんだ茶番劇の始まつ（前書き）

初めての小説ですが…

とんだ茶番劇の始まり

「オラオラー！ ネーチャン！ サッサト、コノ鞆ー金ヲ詰メナ！！！
！」

この「」時世、
彼と対等に殴りあえるのは関取かプロレスラーだ。
と、 いうような体格が整っている大男が、 重みのあるマシンガンの
銃口を、 女銀行員の頭に突き付けていた。

思わず連想してしまった。

黒い目指し帽。
黒いツナギ。

まるで銀行強盗という情況。

「耳ヲ削ガレタイノカヨー？ イイ腰ツキシテルゼ！ ネーチャン！
！ハツハ！」

その大男は、 近所の床屋にある大熊が鮭を食べる「真つ黒熊の木彫
り」

とこりで、
自分は、 と言つと、 自動ドア付近に見張りをしていた痩せ身だが身
長が2メートルはある男にあっけなく捕まっていたのだった。

「お前らあ……その格好……金でもおろしにきた分けじや……なさそ
うだな。」

あたり前だ。

こんな格好で普通銀行に来ない。

第一。銀行強盗の最中ならば、入店しない。

それは誰にでもそうだ。

あつかましババアが、

ワザワザ銀行強盗の最中にノコノコ入り、
「ちょっと定期預金解約したいんだけど、なんとかしてちょうだい。
あら、順番待ちなの？あら、ごめんなさい。ところであんた。そこ
のデカイあんたよ。真っ黒熊の木彫りみたいねえ。デカイし、黒い
し」

なんてババアがいたら、眉間にマシンガンで撃ち抜かれ脳死

又は、金髪の兄ちゃんが強盗中のコンビニエンスストアにズカズカ
入り、

弁当、缶コーヒー、カップラーメン、雑誌などを手にレジへ並び。

「ちい、おせーなコラア いつまで待たせんだタ！」

などと、強盗中の長身男の後ろで啖呵を切った口には、眉間にショットガンで打たれて脳死。

野垂れ死にであるからだ。

ババアや兄ちゃんなどのように強盗という異様な情況の際、入店したら脳死する事をみんな知っているからだ。

からといって、

自分があつかましババアと金髪の兄ちゃん等の知能レベルが同等又はそれ以下ではないのだ。

一緒にされでは困る。

強いていうならば

天候が快晴の小春日和。

「どれ散歩でもするか、」

とババアや兄ちゃんより知能指数がはるかに上の【先生】と呼ばれる役職についていいたいい大人が、散歩中に腹の雲行きが怪しくなり。絶対絶命。

もしもの事があつては【先生】と信頼されるこの自分の地位が危ぶまれ、野糞垂れ。又は糞漏らし。などと世間に嫌われ、信頼が消える。すると仕事がなくなつてしまつ。果ては首吊り自決。人生の終了

「うう…妻子が…」

などと恥きつつ、腹を押さえ周りを見渡すとあつたよコンビニエンストア。

急いで店内に駆け込むがそのコンビニエンストアは強盗中。

しかし、死にもの狂いなので強盗に気が付く暇もなく。

ドア付近の、痩せ身だが身長2メートルはあつ男を払いのける。

が、

あらう事か【熊の木彫り】が突如立ちはだかる。

大男に殴られ、三秒間あまり尻を抑えつつ空中にとんだ。

その時、ハツと気がついた。
強盗している。
殺される。

あつかましいババアや
金髪の兄ちゃんの用に。

そう思つた。

しかし、トイレに行く事で死にもの狂いのため
「頼むトイレに行きたいだけなんだ。でなければ私は首吊りして死
ぬ」

と、言い放つ瞬間に長身の方にショットガンで眉間を貫かれ脳死。
スイカが割れるように頭が割れる。

と、いつたように自分たちは銀行強盗に気が付く暇もなかつた訳
だ。

.....

「おまえらあ、とんだ馬鹿かあ！？銀行強盗中に入つてくる奴らな
んて、いねえはなあ。」

床に伏せていると、自分の頭を長身の男がグリグリと足で押された。
これほどひの屈辱はないだうつ。

「何しに来たんだよーーー！」

銀行強盗中の銀行に死にもの狂いで入つて行つたには理由があつた。

死にもの狂いで、定期預金を解約しに来たのではない。

ましてや、弁当を買いに来るわけもなく、トイレに行かなければいけない理由もない。

それは1ヶ月前の事だった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7876v/>

野垂れ死に、ゴミ箱の蓋

2011年10月9日14時53分発行